

いまさら聞けない1歯のラバーダム防湿と取り 入りたい臼歯部多数歯ラバーダム防湿

Hands-on Mastery of Rubber Dam Isolation: From
Single-Tooth Basics to Multi-Tooth Posterior Applications



辻本 真規

Masaki Tsujimoto

辻本デンタルオフィス

近年歯科界でラバーダム防湿を行う歯科医師の割合が増えている実感がある。特に意識の高い若手歯科医師の間でコンポジットレジン修復や根管治療でラバーダム防湿を使用するのが当たり前という風潮も強くなり、歯科界全体としてラバーダム防湿が再注目されている。吉川らによる2003年の報告では、日本歯内療法学会（以下 JEA）の会員のラバーダム防湿の使用は「必ず使用する」25.4%、「時々使用する」26.5%であり、かなり低い数値となっていた。それから18年後、2021年に浅井らの報告では JEA 非会員群：必ずする 14.1%、一般的にする 14.5%、時々する 13.2%、時折する 25.2%、使用しない 32.9%。

JEA 会員群：必ずする 51.5%、一般的にする 22.5%、時々する 10.9%、時折する 10.7%、使用しない 4.4%、JEA 専門医群：必ずする 60%、一般的にする 21.2%、時々する 10.5%、時折する 8.4%、使用しない 0%となった。2003年の吉川らの論文から18年で、ラバーダム防湿の使用率は JEA 会員や専門医を中心として大きく改善している事が分かる。

世界各国の使用率を見ても新しい論文では使用率が高くなる傾向が見られ、特にアメリカの歯内療法専門医や、スウェーデンでは非常に使用率が高い。

感染制御、防湿の観点から考えて歯内療法や、修復処置においてラバーダム防湿の利点は多い。そのうえ、マイクロスコープとの相性も非常に高い。

マイクロスコープを使用して治療をする場合、高倍率で見ることが出来る反面、周囲の環境が見えないという欠点がある。しかし、ラバーダム防湿をすることにより、頬粘膜や舌など、治療時に気を付けなければならない箇所を排除し、フィールドコントロールが出来る。これにより術者は治療部位に集中することが出来るようになり、安心、安全にマイクロスコープを使用することが出来る。本ハンズオンセミナーでは、基本となる1本の歯のラバーダム防湿と、導入したい臼歯部多数歯防湿のレクチャーを行う。

【略歴】

2008年 日本大学松戸歯学部卒業

2008年 日本大学松戸歯学部附属病院研修医

2009年 日本大学松戸歯学部附属病院研修医修了

2009年 一般開業医入職、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科入学

2013年 一般開業医退職、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科修了

2013年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科齲蝕学分野助教

2018年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科齲蝕学分野退職

2018年 辻本デンタルオフィス開業

2013年 博士（歯学）

2011年～ 日本顕微鏡歯科学会認定医

2017年～ 日本顕微鏡歯科学会認定指導医

2023年～ 日本顕微鏡歯科学会理事

2025年～ 日本大学松戸歯学部保存修復学講座非常勤講師